

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171300017		
法人名	社会福祉法人 清水福祉会		
事業所名	グループホーム たんぽぽ		
所在地	小城市小城町821-4番地		
自己評価作成日	平成24年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html">http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成24年3月2日	外部評価確定日	平成24年4月4日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>本人の持っている能力を活かし、入居者と家族と職員が共に支え合い、和やかに暮らす事が出来るホームづくり。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>市の中心街から徒歩圏内に位置し、散歩コースには神社や寺院・川・畑もある自然豊かな環境に建つホームである。敷地は広大で、経営母体の病院、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護保険サービス事業所が隣接して建つ。隣接施設や事業所とは、ボランティア訪問や安全面で協力関係が築かれている。特に夜間の安全に対する協力体制は、入居者本人や家族、夜勤職員の安心につながっている。地域の一員としての生活を支え、ホーム内に閉じこもらないケアや誰でも気軽に立ち寄りやすいアットホームな介護に努めるなど、理念に沿ってその人らしく生活できる支援がなされている。居室前には菜園や花壇が造られ、室内に居ながら野菜の成長や草花で季節の移ろいを感じる支援がなされている。菜園は居室に沿って造られており、根菜類や葉物野菜、豆類など多数植えられている。収穫した野菜は日常の食事で提供され、入居者の楽しみに繋がっている。</p>
---

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である、「笑顔」「和」「思いやり」を持って社会へ貢献します。ホームの介護理念として、「地域の一員として、人と触れ合いながら、私らしく生きるために、優しさと思いやりを持って、心と体の健康をサポートします。」を掲げ共有し実践につなげている。	地域の理解を得ながら、地域でその人らしい生活を支える事業所理念をつくりあげている。職員は入居者に対する声かけや表情に注意する等、日々の業務を通して理念の実践に取り組んでいる。毎月の会議でも理念に沿ったケアの確認を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	他方面からのボランティアの受け入れ、地域の祭りへの参加、また法人の夏祭りは地域に開放され、地元・地域等との交流を行っている。	地元小学校とは継続的な交流を行っている。また、保育園や高校生の訪問も受け入れている。法人合同の夏祭りには、多くの地域住民の参加があり、地域の恒例行事となっている。買物や散歩の時の挨拶などで日常的に地域と交流があり、地域の一員としての生活が営まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やボランティア訪問等を通して地域の中で認知症の理解や、認知症の方を抱えている家族への相談等へのアプローチを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回を目標に、運営推進会議を行い、ホームの活動・計画を報告したり行事へ参加して頂いたりして、そこでの意見を活かし、サービスの質の向上に努めている。	運営推進会議は区長や民生委員、行政職員、利用者家族などの参加で開催している。会議では双方向の情報交換や意見交換が行われている。出された意見や要望は職員に伝達して検討し、サービスの向上に活かしている。消防避難誘導訓練に運営推進会議委員の方々も参加されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の構成員である地域包括支援センターや高齢障害福祉課、又ボランティアコーディネーターを通じ、事業所の実績やケアサービス等の取り組みを伝え協力関係を築いている。	管理者は地域包括支援センター職員や行政担当者とは日頃から顔なじみであり、問題点や分からない事があれば直接相談できる関係ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員は身体拘束をしないケアの理解に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員は身体的拘束や精神的拘束のリスクを理解し、入居者の気持ちを察したり、言葉のかけ方を工夫するなど、入居者の行動を妨げない支援を心がけている。入居者は自由に行動でき、職員は見守りながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全ての職員は高齢者虐待防止法の理解に努め、毎日の生活の中で注意を払い努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症という疾病に関わる中で、全ての職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度について外部研修等を通し学ぶ機会があり、それらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は契約時において、契約書、重要事項説明書に関して、不安や疑問がないよう十分な説明を行い、理解・納得を得ている。又解約等においても同様に十分な説明を行っている。改定等に関してはその都度、書面や説明の場を設け伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりコミュニケーションを密にし、様々な意見・要望を表して頂くよう伝え、意見・要望はその都度検討し運営に反映させている。又苦情(相談)申出窓口及び第三者委員を設け、苦情(相談)があった際にはそれらを運営に反映させる準備を行っている。	職員は家族や入居者と話す事を心がけ、意見や要望の把握に努めている。利用料は原則来所支払いとし、家族の面会が多くなる様に工夫している。出された意見や要望は連絡ノートに記載し、職員間で情報を共有すると共に検討し、ケアプランに反映させるなど運営に活かしている。玄関に意見箱も設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議をはじめ、またその都度職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月全体会議を開き、施設長、事務長、管理者は職員と話し合う機会を設けている。管理者は常に職員と話しをし、要望や意見を聞くように心がけている。職員は日々のケアの中で気付いた事は管理者に伝えるように努めている。職員から出された意見や要望は、運営に活かせるように検討がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持ち、十分発揮出来る職場作りを努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、積極的な研修等の参加機会を設け進めている。又研修に参加した職員より様々な情報提供を受け、職員の育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	見学・相談を含め同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくり等の活動を通じて情報を取得し、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、安心確保への関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、家族が困っていること、不安、要望等に耳を傾け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず一番に必要としているニーズを見極め、他のサービス利用も含め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の暮らしの中で、入居者の出来る事を見出し、生活レク参加等の共同作業にて共に暮らす者同士としての関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出、外泊等の支援、その中で本人と家族との絆を大切にしながら、家族と職員で共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等に来られる馴染みの方や知人等へ再来の言葉掛け等を行い、これまでの関係が途切れないよう支援を行っている。又場所においてもいつまでも記憶に留まるように話題の中に取り込んでいくよう努めている。	知人や友人の訪問時には茶菓子の接待をするなど、職員は入居者の馴染みの関係を大切にした支援を心がけている。昔から見慣れた川や神社を散歩したり、馴染みの店や以前通いなれた店の利用など、入居者から要望があればできる限り対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活レクやレクリエーション等の共同の場を通して、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もこれまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、面会や相談支援等に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント作成時より一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、又日々の関わりの中で何気ない言葉や表情から、一人ひとりの思いや暮らし方の希望・意向の把握に努めている。困難な場合は家族と共に本人本位で検討している。	職員は入居者と会話する事を心がけており、普段の様子や言葉、表情、笑顔などから入居者の思いや意向を汲み取るように努めている。希望や意向を表すことが困難な入居者には、家族から情報を得るように努めている。知り得た情報は連絡ノートに記載し、職員間で共有してケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント作成時、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過など家族やこれまでの担当マネージャー等より情報の提供を受け、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活歴をもとに、入居後は日常の暮らしの中から一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常面会時等においても家族と話す機会を設けたり、毎月の会議においてはスタッフで話し合い介護計画作成へ反映させている。	入居者や家族から要望を聞き、具体的な介護計画が立てられている。毎月モニタリングが行われ、利用者本人や家族の意見、要望を取り入れて現状に即した介護計画が作成されている。職員は日々のケアの中で入居者の状態を把握するように心がけ、介護計画に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別ケース記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、様々な情報提供や関わり合いの検討を行い、既存のサービスに捉われない柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の能力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	納得が得られた掛かり付け医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられる支援と看護師の雇用にて受診への付き添い、Drへの説明など適切な医療を受けられるよう努めている。	入居者や家族の意向を大切にし、入居前からのかかりつけ医の継続受診を支援している。通院は家族の送迎を基本としているが、緊急時などは職員で対応している。家族送迎時や職員送迎時、どちらも受診結果は適切に説明と報告がなされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常の関わりの中で捉えた情報や気づきを職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、指示をもらい、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療できるよう、またできるだけ早期に退院できるよう、ソーシャルワーカーと情報交換や相談に努めている。又そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、本人・家族等と話し合いを行えるよう、又重度化した場合における対応に係る指針を掲げ、最終的には家族の希望に添えるよう取り組んでいる。	看取りに関する指針があり、契約時には、本人及び家族に事業所の対応について説明が行われ、同意を得ている。入居者の状態に合わせてその都度家族と話し合いを持つ体制ができており、家族と事業所は方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同一敷地内に病院があり、24時間の連絡に対する体制は取れていて、それをマニュアル化し掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定を含む年に2回の避難訓練の実施、又消防署と連携し、利用者と共に地域の人々の参加と協力を得て行っている。その他2日分程度の非常食の備蓄を行い、マニュアル作成している。	消防避難訓練と避難誘導訓練は年2回、入居者も参加して併設事業所合同で実施している。災害時に備えて隣接事業所や隣接病院との協力体制もできており、食料や水も備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中で、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応に配慮している。	入居者を人生の先輩として敬い、言葉づかいや態度に気をつけ、誇りやプライバシーを損ねることのない様に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で個別の対応を重視し、本人が思いや希望を表したり伝えたり自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れは決まっているが、職員の都合や行事等を優先するのではなく、利用者のペースに合わせ、その日をどのように過ごしたいか希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を着替える時などにおいては、衣類の選択ができる様な配慮や、季節に合ったその人らしい身だしなみやおしゃれができるような支援を行っている。又理美容に関しては移動美容室やボランティアの利用にて対応出来ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の好みや食べたい物を聞き、職員で作るが、食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの力を活かしながら、入居者と職員と一緒に炊事全般を行なっている。	食事の下ごしらえや盛り付け、配膳、下膳など入居者ができることは職員が見守りながら支援している。基本的な献立は決っているが、ホームの菜園で収穫した野菜等による献立の変更も柔軟に行われている。入居者の要望で出前をとる事もあり、食事の楽しみに繋がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス・カロリー等は栄養士のチェックを受けている。食事・水分摂取量については一人ひとりの状態に応じた支援を行っている。又、お茶等はいつでも飲むことが出来るよう準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、言葉掛け・誘導・見守り・一部介助等を含め一人一人の力に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	全ての入居者はトイレでの排泄で、尿意・便意が十分でなく失禁が多い方には随時関わりを行っている。排泄の失禁を減らし自立、維持に向けた支援を行っている。	入居者一人ひとりに合わせた排泄の自立支援を心がけている。声掛けや誘導でトイレで排泄できるよう支援しながら、パッドや紙パンツなど本人の必要に合わせて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関しては、午前中の体操やレクリエーション、食事では野菜を多く摂取するよう心掛けている。又水分補給をこまめに行い、入浴後にヨーグルトを提供するなど、全体及び個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は隔日体制を行っているが、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるよう個々に応じた入浴の支援を行っている。	入浴は2日に1回を基本としているが、本人の希望があればできる限り支援するように心がけている。一人でゆっくり入浴される入居者や仲の良い友人と一緒に入浴される入居者もいる。入浴されない日は清拭などで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援においては、Dr、看護師の指導のもと、一人ひとりが使用している薬の内容等について理解しており服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びを感じて頂ける様な生き甲斐のある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や能力を生かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事については、入居者の行きたい場所などを聞きドライブ等へ反映させている。又地域の方や家族の参加協力を得ている。	天気の良い日には近隣への散歩やドライブなど、なるべく戸外に出るよう心がけている。庭の菜園の手入れや花壇の花を楽しむ入居者もいる。新聞の情報を見て花見や行事見学に行くこともある。入居者の身体状況に合わせた車両を活用し、外出支援も柔軟に行われている。	



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持、支援は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中お見舞い等の手紙の支援や、本人が電話を希望されたり、掛かってきた電話に出ただけ等の支援は行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間が入居者にとって不快や混乱を招かないよう配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫を行っている。壁には入居者と一緒に作った季節の飾りやカレンダーを貼ったりして工夫をしている。	ホーム内は木質調に色彩が統一され、明るく落ち着いた雰囲気となっている。毎朝窓を開けて換気を心がけている。居間兼食堂は空気清浄器を活用して不快な臭いがない様に努めている。また、加湿器で適度な湿度が保たれている。花や行事の飾り物で季節を感じる雰囲気づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人または気が合う入居者同士で過ごせる居場所をホールの中の随所に準備し、過ごしやすい工夫も行っている。一人用の椅子や数人で掛けるソファ、他の入居者と少し離れて過ごせる場所等の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は本人・家族へ安心した居室作りを伝え、使い慣れた家具や好みの飾り物等を置き、心地よく過ごせるように工夫している。位牌や仏壇等を持ってこられている方もおられる。	居室はトイレと洗面台付きで広く、自宅で使い慣れた馴染みの品の持ち込みを支援している。テレビやたんす、椅子、テーブルなどを持参している入居者もいる。室内には絵や写真、手芸品などが飾られ、その人らしい居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」や「わかること」を把握し、安全でできるだけ自立した生活が送れるよう、ホームの内部はもとより外部においても工夫し気を配っている。		

**V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)**  
**※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない